

## 新型コロナウイルス感染防止対策チェックシート（ホール用）

申請者名 \_\_\_\_\_ 利用日 令和 年 月 日

催し物名 \_\_\_\_\_

### ①発熱者等の利用防止

- 来場前の検温の要請とともに、以下の項目に当てはまる方の来場を控えてもらうよう事前に周知・要請する。
  - ・発熱、咳や喉の痛み、強いだるさ、味覚・嗅覚障害があるなど、体調不良をお感じの方
  - ・新型コロナウイルス感染症陽性者との濃厚接触がある方
  - ・過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問者及び当該在住者との濃厚接触がある方
- 会場入場時に手指の消毒や検温等の対策を講じる。

### ②3密（密閉、密集、密接）の回避

- 施設内では、人と人との距離を最低1m確保するように努める。
- 常時換気に努める。

### ③飛沫感染・接触感染の防止

- マスクの着用、咳エチケット、手洗い・手指消毒を徹底する。
- 大声を出さない、対面での会話は避ける、近接した距離で話さないなど、飛沫感染・接触感染の防止のための注意喚起を行う。
- 大声での発声が伴わない利用であっても、密が発生しない程度の間隔（最低限人と人とが接触しない程度の間隔）を空けるなど、必要となる感染防止対策を講じる。

### ④利用前後の対策

- 可能な範囲で利用者の氏名及び緊急連絡先を把握し、名簿を作成・保存する（1か月程度）。
- 利用者に新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）のインストールを促す。
- 仕込み・リハーサル・撤去において余裕あるスケジュールを設定する。
- 休憩時間や入退場時間は余裕を持った設定をする。
- 地域の感染状況等により、直前でも利用許可を取り消すことがあり、その際の補償などとはできないことを了承する。

### ⑤周知・広報

- 上記①～④の感染防止対策について、利用者・参加者に周知する。

## ⑥客席の配席（収容率）・会場内での感染防止策

▼収容率 100%以内（最前列席については下段参照）

来場者による大声での歓声、声援、唱和等がないことを前提としうる公演である。

▼収容率 50%（最前列席については下段参照）

マスク着用と発声の抑制の周知及び個別の注意など必要となる感染防止策を総合的に講じる。

十分な座席の間隔（四方を十分に空けた席配置等）を確保する。

（異なるグループ間では座席を1席空けますが、親子等の同一グループ（5名以内）では座席間隔を空ける措置は不要）

感染リスクが高まるような演出（声援を求める、来場者をステージに上げる、ハイタッチをする等）は控える。

表現形態に応じて、出演者間で最低1mを目安とした十分な間隔をとるよう努める。

客席の最前列席は舞台前から距離を取ることとし、最低でも水平距離で2m以上を設ける。

来場者の配席については、原則として指定席にするなどして、主催者側で客席状況を管理調整できるようにする。

## ⑦人と人との距離の確保

入場時や公演前後・休憩中に人と人との距離を最低1m確保するよう周知する。

トイレ待ちで十分な間隔を確保した整列をするよう周知する。

## ⑧感染症対策の徹底

会場の出入口等の必要箇所に手指消毒用の消毒液を設置する。

来場者と関わる関係者は、マスクの着用に加え、必要に応じて手袋やフェイスシールド等を着用する。

（入場時のチケットもぎりがある場合）マスクや手袋の着用を行い、来場者の密集を回避するため、もぎりの簡略化や入場待機列の配置などの工夫を行う。

（物販等がある場合）最低1mの間隔を確保して整列させ、対面販売時は、アクリル板や透明ビニールカーテン等により購買者との間を遮断する。

## ⑨公演関係者に関する感染防止策

楽屋、控室、稽古場等でも不特定多数が触れやすい場所の消毒を定期的に行い、必要箇所に手指消毒用の消毒液を設置する。

楽屋、控室、稽古場等でも密にならないように定員を調整するとともに換気を励行する。

来場者側の自己検温だけでなく、公演主催者側でも会場入場時に検温等の対策を講じる。

## ⑩その他

①～⑨の基本的な感染防止策を踏まえるとともに、個々の公演の内容等によりその必要性や水準等が異なること等に鑑み、各公演ジャンルの統括団体等のより詳細なガイドラインも参照する。

記入日 令和 年 月 日 記入者名